

ゆるキャラを活用して 業界の 固定概念から脱却

3

大洋製器工業株式会社は、港湾や建築・土木現場の吊り作業で使用するシャックル・フック・リング、固縛金物などの総合メーカーである。同社の「ツイストロック」は、コンテナ同士を固定し、流出事故を防ぐ製品として世界標準で普及している。硬い体質の業界と思われがちだが、会社の取り組みは柔軟で独創的。注目すべきは社員の落書きが発端で生まれたゆるキャラ、“シャックル犬オーティー”の存在だ。ホームページや展示会などに登場させ、会社のPRに活躍。さらに社員からの発案で、玉掛け作業に関わる人たちの情報コミュニティサイトも立ち上げた。そこでは“萌えキャラ”も登場している。「危険が伴う作業だからこそ情報交換を促したい」と意気込む、代表取締役社長 岡室富夫氏。「ユニークなアイデアの数々は、社員から自然発生したもの。やる気のある社員につられて、他の社員たちのモチベーションも上がります」。今や幹部候補に志願する社員も多いという。同社の革新はこれからも続くだろう。

大洋製器工業株式会社
大阪市西区千代崎1-10-2
TEL_06-6581-0641
http://www.taiyoseiki.co.jp/



社是を個人目標まで落とし込み、技術伝承のモチベーションに

4

液体や粉体を貯蔵するタンクや各種プラント、圧力容器の端面に使用されている曲面の特殊形状部材『鏡板(かがみいた)』の製造などを行う株式会社北海製作所。代表取締役社長の林孝彦氏は「基本的に単品生産という究極の多品種少量生産上、固い鉄を曲面にするという特殊形状加工が当社の事業。ものづくりに関する技能伝承は当社の大きなテーマなんです」と語る。同社では技能伝承をスムーズに行うために、社是を具体的な活動に落とし込んだ全社目標から各社員が自分の個人目標を設定し、それを全社員で共有する仕組みを構築した。「個人目標を介してリーダーと社員のコミュニケーションを活性化させることで、日常業務の中でも技術が伝承される社内制度の構築を目指しています」と取締役工場長の川崎俊光氏。近年は神戸・長田にある鉄人28号の像をはじめ、モニュメントやアート作品を制作する景観事業にも取り組むなど、鏡板製造技術を応用してビジネスの幅を広げている。



株式会社北海製作所
岸和田市臨海町7-4
TEL_072-438-3323
http://www.hokkai.co.jp/hss/

5

科学技術とものづくりをつなげる未来の起業家を育成!



大阪大学 e-square
吹田市山田丘2-1
TEL_06-6879-7755
http://e2handai.jp/

大阪大学のベンチャービジネスラボラトリー(VBL)が、2012年春、阪大e-squareとして新たにスタートした。新たな役割は、科学技術系アントレプレナー教育を主眼とした基礎セミナーや異分野融合カフェの開催をはじめ、ASG(Angel Student Grant)として、アイデアコンテストによって選ばれたグループの活動フォローなど。現在活動しているグループの中のひとつ『Robohan(ロボはん)』は、2013年6月に開催される『NHK大学ロボコン(ABUロボコン)』での総合優勝を目指している。学生たちは本気で優勝を目指すべく地元大阪のものづくり企業とのコラボレーションを選択した。白羽の矢が立ったのは3次元超音波センサーで実績がある株式会社プロアシスト。開発主体は学生で、プロアシストの役割はバックアップ。代表取締役の生駒京子氏は「あくまで学生の自律的な思考を最優先し、いきなり答えを教えるようなことはしません。考え抜いてもらいます」と語り、総合優勝を目指す学生たちの熱い想いを受け止める。

6

『MPDP』がヒット商品を生み、人を育てる



株式会社エンジニア
大阪市東成区東今里2-8-9
TEL_06-6974-0028
http://www.engineer.jp/

プロフェッショナル用工具メーカーの株式会社エンジニア。製品アイテム数は1,000を超えており、しかも10年で115万本を販売した『ネジザウルスGT』や『鉄腕ハサミGT』といった独自性あふれるヒット商品を国内外で販売している。「当社の製品づくりはマーケティング、パテント、デザイン、プロモーションという『MPDP』を意識して製品開発を行っています」と、代表取締役社長の高崎充弘氏。特に知財管理を表す「パテント」の面では、社員が約30人にもかかわらず、営業担当を含む6名が知的財産管理技能検定に合格している。独創的な製品開発や海外展開を視野に入れるなら、中小企業にとって知財管理の弱さがボトルネックになっており、開発段階からの検討が必須だと語る高崎氏。「知財を含め『MPDP』を意識すれば、モノづくりのプロセスは確実に変わる。発明を経営に活かせるようになり、結果として自社商品のブランディングにつながるんですよ」

『人育て』は 『自分育て』 日常が人を育てる

7

射出成形や金属粉末積層造形などの技術で、自動車部品をはじめとした精密部品の試作品や金型を製造するジェイエムピー。世界でも数少ない装置や機械を巧みに使いこなす高い技術は、日本のみならず世界中から注目されている。そんな同社の人材育成は、代表取締役である塚正喜氏の「『人育て』とは教えるのではなく、相手が気づくまでじっと待って感じてもらうこと。手取り足取り教えるのとは違う」という考えにもとづいている。2009年来日し、ジェイエムピーで働きながら日本で活動するイタリア人アーティスト、ジャンルカー・サンヴィード氏も、塚社長の「人育て」によって花開こうとしている一人だ。2010年『第2回平安神宮アートコンペ“神々への捧げもの”』展において『Nel SSilenzio』という作品で最優秀作品賞を受賞。「人の良い部分を見つけて伸ばしてあげれば、それがいつか自分の身に返ってくる。『人育て』とは自分自身を成長させること」と語る塚氏の人材育成に対する情熱は尽きない。

株式会社ジェイエムピー
高槻市塚原5-20-10(高槻夢考房)
TEL_072-697-3030
http://www.jmp.ne.jp/



よりよい“もの”をつくる、よりよい“人間関係”をつくる

掃除機や空気清浄機、自動車、住宅換気システムなどで使われているフィルターを、斬新なアイデアとともに世に送り出しているフロンティア産業株式会社。同社では、営業担当者が自分で試作品を作って顧客に提案している。技術的なことを理解しているので顧客から相談を受けた時に即答できる、それが強みだ。「家電メーカーは製品開発のスピードが速く、こちらもそのスピードに負けないように開発する必要があります」と社長の小田島進氏は語る。よいものづくりはコミュニケーションからと、社内での人間関係づくりにも配慮している。品質管理グループのリーダー小田島洋史氏は「小集団のチーム制を導入し、仕事や人間関係について相談がしやすくなるようにしました」と語る。会社の方針説明会では、パート社員にまで経営情報を開示して意思統一に努めている。コミュニケーションしやすい体制と情報開示。「風通しのよい」風土が、躍進の原動力になっている。



フロンティア産業株式会社
門真市江端町6-7
TEL_072-882-7601
http://www.a-frontier.co.jp/

8